

令和3年度 市政懇談会 開催報告

市は、10月1日から8日まで市政懇談会を開催しました。今年のテーマは、4年度から5年間の中期的な行政運営の指針となる「第2次奥州市総合計画後期基本計画」です。これに関連し合併15年の節目として実施した「奥州市の合併検証」についても説明し、多くの市民から意見が寄せられました。

■問い合わせ＝本庁政策企画課企画推進係（☎34-2125）

今年の市政懇談会は、IT技術を活用し、説明をオンラインで配信したほか、本庁・各総合支所では、双方向通信により意見交換などができる環境を整備しました。コロナ禍でも、市民に対する十分な説明の機会を確保するための試行的取り組みを兼ねて実施しました。

■地域別参加者数

地域	メイン会場 【総合支所など】	中継会場 【地区センター】	オンライン 視聴	合計
水沢	4人	54人	17人	75人
江刺	22人	49人	13人	84人
前沢	9人	11人	13人	33人
胆沢	13人	11人	8人	32人
衣川	33人	11人	7人	51人
合計	81人	136人	58人	275人



市議員 及川 勲

▼「第2次奥州市総合計画後期基本計画」

「総合計画」とは、市のあらゆる分野の施策・事務事業の目指すべき方針を示す最上位の計画です。少子高齢化や人口減少のさらなる進行など本市を取り巻く社会環境は日々変化しており、急激な時代の変化にも的確に対応することが必要です。市は、効果的なまちづくりを進めるため、4年度から5年間の中期的な行政運営の指針になる後期基本計画の策定を進めています。懇談会当日は計画の中間案の説明を行い、市民の皆さんから意見をいただきました。

▼「奥州市の合併検証」

今年で合併から15年を迎え、市の現状と課題を、それぞれの項目から検証した結果についても報告しました。

未来を考え、意見を交換
主な「市民の声」を紹介

テーマ 総合計画後期基本計画

Q 少子化対策として子育ての補助や支援を行っていくと記載があるが、市内で出産ができる環境が整っておらず、市外に出産のために行かなくてはいけない状況。そのような妊婦に対する支援や補助はどのようなものがあるのか。

A 現在の医療体制を維持しながら、周産期医療に対してチームで対応できる体制をとれるような方向に近づけていきたいと考えています。現状の支援としては、出産・検診時のタクシー利用に対する交通費の補助などがあります。

また安心して出産をしてもらうため、妊娠9カ月半まで通院する地元クリニックと出産予定の県立病院との情報連携・共有ができないか、県と協議を行っているところです。この問題は県内でも極めて重要になっていることから、妊婦やその家族にかかる金銭



的、精神的な負担を軽減できるような方法について鋭意検討しているところです。

Q 少子高齢化社会の解消のためには、女性の活躍の場の確保が必要だと思う。本日の市の説明者側には女性はいないようだが、市の女性登用についてもしっかり進めていただきたい。

A 合併後の職員採用については、男女比はほぼ同じか若干女性の割合が多い状況です。今後は女性管理職の割合も増加することが予想されます。性別を問わず職員の意識の改革も併せて行っていく必要があると考えています。市の組織だけでなく、企業や地域などで女性が十分に力を発揮し、中心的に活躍できる時代をつくっていかなくてはならないと考えています。

テーマ 合併検証

Q 合併後15年が経過したが、全体がまとまっておらず、それぞれの地域の主張が強く残っているように感じる。もう少し一つになるよう強力に押し進めてはどうか。

A 合併当初は、地域への愛着ゆえの発言が多かったというのはそのとおり感じていました。しかし最近では、若い世代が地域の枠を超え、市を大きな一つのフィールドとして活躍しようという動きが出てきています。多くの声に耳を傾け、しっかりと努力していきたいと考えています。

Q 検証のまとめの『高度化・多様化する住民ニーズへの対応』について、「改善を図るべきまちづくりの課題」として「農業担い手確保、経営体強化のための基盤整備」との記載があるが、具体的にどのような方向で進めていくのか。

A 現在の農業が非常に厳しい状況にあることは検証のまとめのとおりです。



現在、市では、効率的・集約的な農業を行うことができるよう圃場整備を進めています。また、大規模圃場の確保が難しい中山間地では、地域の特色を生かしたハウス栽培など、付加価値の高い農業を進めたいと考えています。

今一番重要なことは、良いものを作るだけではなく、販売先を見つけ、高収益を得られる職業として農業が魅力的でなければいけないということです。若い人・未経験の人が農業に参入できるように、国でも各種補助金を準備しています。このような補助金も積極的に活用して、地域の農業の発展を進めていきたいと考えています。

自由懇談

Q 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止という理由でリモートでの懇談会となっているが、このような状況だからこそ、市のトッブが住民の前に直接来て、顔色を見て、状況を肌で感じる必要があるというのが行政の根幹なのではないか。

A 現在、地区センターにもリモート中継ができます。市役所と地区センターを結ぶだけでなく、地区センター同士あるいは地域外の人とを結ぶ情報発信拠点として対応できるような方法を考えています。いただいたご意見は、今回のようなリモートでの対応を全て否定するものではないと思います。が、直接行ってお会いして、膝を交えて説明するという部分は忘れてはいません。今回は試行としてこのような形をとらせていただきました。

市民の皆さんからのご意見を、これからの市政運営に生かしていきます。ご参加ありがとうございました。

市政懇談会での意見・質問とそれに対する市の回答については、市ホームページにも掲載しています。



【市HP】

※写真は掲載意見の発言者と一致するものではありません